

# Annual Report 2011

日本国際協力システム 年報



援助をカタチに

一般財団法人日本国際協力システム

## JICSの プロフィール

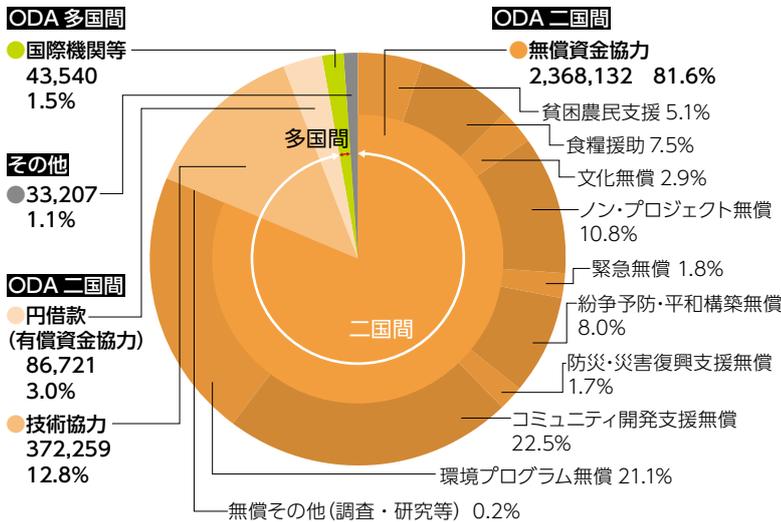
一般財団法人日本国際協力システム(JICS)は、日本の政府開発援助(ODA)や各種の開発途上国支援において、調達業務および管理業務などを行う、日本で最初の調達専門機関です。

「調達」とは、特定の目的を達成するために必要な資機材や

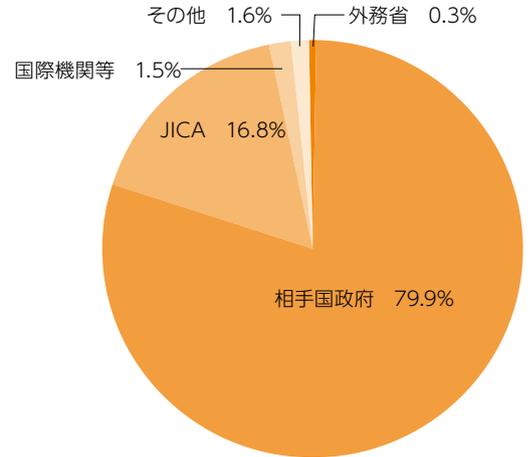
役務(輸送・設計・施工などの業務)を対価を支払って入手することです。JICSは1989年の設立以来、現地で必要とされている資機材や役務を適正かつ効果的に選定・調達しています。

組織の指針「MVV」の中でJICSは「VISION」として掲げる「国際協力分野における世界最高水準のサービスを提供できる集団」を目指し、知識の蓄積やノウハウの習得、および人材の育成に努めています。

### ● 援助形態別収入実績(2011年度)(単位:千円)



### ● 契約先別事業収入実績(2011年度)



## MVV

一般財団法人への移行を機に、JICSにおけるすべての戦略の根源的な原点として、職員一人ひとりへの浸透を重視し、組織全体での議論を通じたボトムアップにより決定しました。

### MISSION

私たちは、国際協力分野におけるプレーヤーとして、国際社会の平和と安定に貢献します。

### VISION

私たちは、国際協力分野における世界最高水準のサービスを提供できる集団を目指します。

### VALUE

#### 中立性、公正性、透明性

中立的な立場を維持し、公正性・透明性を確保します。

#### 信頼性

現場の声に耳を傾け、クライアントとの信頼を築きます。

#### 援助の効果

援助の効果が最大限に活かされるよう努力します。

#### 創造と挑戦

既成概念にとらわれず、新たなサービスを創造し、提供することに挑戦します。

### MISSIONとは?

JICSの使命・社会的存在意義・貢献の想いです。JICSで働くすべての職員が、常に「MISSION」を胸に責任感とプライドを持って日々の業務に取り組みます。

### VISIONとは?

「MISSION」を、JICSが目指す中期的な目標として表現したものです。現状に満足することなく、「VISION」の達成に向けて、日本のみならず世界からも一層、信頼される組織となるべく研鑽します。

### VALUEとは?

「VISION」を達成するためにJICS職員一人ひとりが遵守すべき価値観であり、すべての職員が4つの「VALUE」に基づいて行動します。

# 目次

2	代表理事あいさつ
3	<b>第1部: 2011年度の活動から</b>
4	2011年度の活動ハイライト
6	<b>特集 新たな組織運営をスタート</b>
9	ODAとJICS
13	JICS 2011年度の主な取組み
13	紛争予防・平和構築無償案件(南スーダン)
14	コミュニティ開発支援無償案件(ラオス)
16	コミュニティ開発支援無償案件(モザンビーク)
18	環境プログラム無償案件(ガボン)
19	環境プログラム無償案件「太陽光を活用したクリーンエネルギー導入計画」 (パラオ、アフガニスタン、ヨルダンほか)
21	緊急無償案件(タイ)
22	JICSの動き
24	JICSの社会活動
25	<b>第2部: 事業実績</b>
26	JICSの主要事業対象国
28	スキーム別・契約先別事業収入実績
29	機能別事業収入実績
30	援助形態別事業収入実績の推移
31	年度別収支の推移
32	2011年度国別主要実績
35	2011年度案件
35	無償資金協力関連事業
42	技術協力関連事業
44	借款関連事業
44	国際機関等事業
44	フォローアップおよびアフターケア活動
44	国際協力事業推進のための啓発・支援活動
44	その他本財団の目的を達成するために必要な事業
45	<b>参考資料</b>
45	2011年度 事業報告
46	2011年度 収支計算書
47	2011年度 貸借対照表
48	2011年度 正味財産増減計算書
49	2011年度 キャッシュ・フロー計算書
50	沿革
51	役員・評議員
52	組織図
53	一般財団法人日本国際協力システム 定款
56	コンプライアンス

# 代表理事あいさつ

私たち日本国際協力システム(JICS)は、2012年4月1日に一般財団法人へ移行いたしました。

2011年度は、東日本大震災の影響もあり、実施事業にも大きく影響が生まれました。しかし、JICS内外の多くの関係者のご支援ご協力の下、着実な事業の実施を確保するべく職員一同で取り組んでまいりました。

また、2011年度は公益法人制度改革に基づく法人移行作業を行う時期として、多くの組織課題に取り組まれました。

まずは、一般財団法人への移行準備です。政府の進める公益法人改革の進捗状況なども考慮し、一方で職員の法人改革への理解、コンセンサスの醸成にも十分に注力しました。その上で機関決定を経て内閣府に申請し、一般財団法人としての認可を受けてこの4月に移行を果たしました。組織運営の新たな指針「MISSION, VISION, VALUE」も策定しました。各々の内容や策定の背景については、冒頭および特集のページをご覧ください。

また、今後、JICSは一層の競争環境のなかで競争優位性を確保してその責任と役割を果たしていくこととなります。その実現のために「事業」「人事」「組織」の3分野のタスクを財団内に立ち上げ、課題解決への検討を行いました。

「事業」においては、2012年度から3カ年の「中期事業アクションプラン」を策定しました。本プランでは、10年後のJICSのあるべき姿を設定し、①調達代理事業を軸とした既存事業の深耕、②新規事業の開拓、を2本の旗として掲げました。②に関しては、全職員参加型の提案コンペを開催し、優秀提案については事業化につなげるべく、組織的に引き続き取り組んでおります。

「人事」では、国際的調達機関としての活躍が可能な人材育成を目指した、「人



材育成のグランドデザイン」を策定し、2012年度より実施しております。

「組織」では、2010年度の3部16課室体制から2室5部18課体制へ改編しました。管理職が部下の息遣いまで感じて、よりきめの細かい指導、管理ができる環境の確保を目指しました。この組織改編を機に新たに13名の管理職を誕生させました。これらの人的な投資コストを負担してでも、チャレンジしなければならぬことがあるものと認識しています。これら管理職を組織全体で育てる意識を持って日々の業務に取り組むことが、今後は一層必要であり、必ず投資の成果物をJICSは享受できると考えています。

2011年は、東日本大震災の影響を大きく受け、実施事業に遅れなどが生じるだけでなく、ノン・プロジェクト無償資金協力、コミュニティ開発支援無償などの主要事業での実績件数が、当初目標に比較して減じるなどの状況が生まれました。

一方、既存の業務からの拡大となりま

すが、円借款事業強化としての調達事後監査業務、また、JICAが実施する技術協力事業に関連した建設などの調達実施促進支援事業などを受託しました。今後もその活動の裾野を広げるべく、積極的に新規事業受託に向けた取り組みを進めてまいります。

ODAおよび当財団をめぐる事業環境は厳しくなると想定しておりますが、JICSの果たす責任と役割の重要性はなんら変わるものではなく、国際協力事業の一層の効率的実施のため、積極的に重要な責任と役割を果たしてまいりますと考えております。

「国際協力分野における世界最高水準のサービスを提供できる集団」たるべく、現状に満足することなく、世界から一層、信頼される組織となるべく研鑽してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

一般財団法人 日本国際協力システム  
代表理事 仲谷 徹

仲谷 徹